

(別紙1) このシートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	田場 聡		所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	
職 名	教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.35	植物病理学実験では実験方法の把握だけでなく、TAとともにデモンストレーションを行うとともにパワーポイントなどを用いて項目別に解説し理解を深めさせる。植物病理学概論、土壤微生物学および植物線虫学では毎年更新した最新の情報について写真や動画で紹介し、当該研究分野に対する興味と理解を高める。英語文献講読Ⅰ・Ⅱでは時事的な科学英文や英語論文を用いて授業を行う。植物病理学特論では、亜熱帯性病害について各病原体の最新の診断および防除法を題材に議論し、実学的な研究について考察する。熱帯植物病理学特論では、様々な植物病害を課題としてゼミ形式で授業を行い、当該分野の専門的知識を深めさせる。プレゼンテーション演習では、特にポスター発表に着目し、作成方法やプレゼン法を実例を紹介し分かりやすく能力の向上に努める。植物病理学研究室の学生に対しては論理的思考能力およびプレゼン能力の開発を目的としたゼミナールを週1回(2人)行う。また学生の積極的な学会参加を促し、修士および博士課程への進学率を高める。また就職の場合は、生物系および農学系関連企業の紹介などに積極的に取り組む。	0.35	植物病理学概論および植物病理学実験ではパワーポイントにより写真や図を駆使して解説した結果、学生の理解が深まった。植物線虫学では動画およびDVD等を用いた最新のトピックを紹介したことで当該分野に対する学生の興味を向上できた。また質問や対話を盛り込むことで授業内容の理解を深めた。英語文献講読では英語論文を教材に用い、和訳だけでなくプレゼンさせることで内容理解に加えてコミュニケーション能力の向上にも取り組んだ。研究室ゼミでは論文内容をパワーポイントで発表後、ディスカッションを行い、学部3年次から修士課程の学生を含む計13名の論理的な観察力とプレゼン力を向上できた。植物病理学特論では、病害虫の総合的防除に関する資料をもとに、具体的な手法や効果や問題点について学ぶとともに地域の取り組むべき問題について意識が高まった。熱帯植物病理学特論では、自己テーマに関連する植物病理学分野(微生物関連)の課題を与え問題意識を持って課題に取り組む自発性と解決力の向上に寄与できた。4年次の主指導教員として4年間の役割を果たした。積極的に修士課程への進学を促した結果、現4年次2名が修士課程に合格した。就職関連では4年次3名がJA沖縄、国家一般職(農業)、札幌テレビ放送に採用が決定した。その他、大学院生の奨学金申請について積極的に取り組んだ。	
研究	0.35	論文(和文または英文)を投稿し1報以上の受理を目指す。国内の研究会または学会などにおいて発表を行う。これまで競争的資金などで採択された研究課題や特許を発展させ、外部資金を獲得し、関連企業との共同研究をさらに推進することで実社会に応用できる技術の研究開発に努める。外部資金については、今年度が4年目となる「戦略的イノベーション創出プログラム(次世代農林水産業創出技術)」において参加企業等とともに実装化に向けたさらなる取り組みを行う。また新たな外部資金獲得を目指す。	0.35	Microbes and Environment、熱帯農業研究およびJournal of General Plant Pathologyにそれぞれ1報づつ(共著含む)計3報が受理された。その他、論文3報を投稿準備中である。現在、県外および県内企業とアワユキセンダングサ関連の商品開発に関して共同研究を行っている他、県外企業と土壌線虫に関する共同研究契約を進めている。沖縄農業研究センター果樹班とピタヤ病害に関する共同研究を開始した。外部資金については「戦略的イノベーション創出プログラム(次世代農林水産業創出技術)」に採択され4年目の研究を推進中である。また株式会社リバナスが開催した「琉球テックブランプリ」で最優秀賞を受賞し、共同研究企業のマッチング支援を受ける予定である。さらに研究室所属の大学院生が日本植物病理学会九州部会において最優秀学生発表賞を受賞した。	
社会貢献	0.10	セミナーや研究会等において積極的に参加・発言し、県内で行われる病害虫関連の研究や産官学連携推進に尽力する。国内で開催される講演会などで講演を行う。	0.10	農業関連企業に対して環境配慮型資材または農業の土壌微生物に対する評価法について助言を行った。沖縄県農業研究センター果樹班に対してピタヤ(ドラゴンフルーツ)の病害の種類や効果的な農薬などについて助言を行った。同センター野菜花卉班職員に対し生物農薬の種類や作用メカニズムについて解説し、効果的な資材選択と使用法について助言を行った。その他、日本植物病理学会九州部会の地域奨励賞に推薦した共同研究者が同賞を受賞した。	
管理運営	0.20	博物館・風樹館長、営利企業役員等兼業審査委員会委員(全学)、教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会委員(全学)、亜熱帯農林環境科学科長として全学および学部・学科運営に積極的に尽力する。	0.20	出張や授業、体調不良等により完全な出席はできていないが、できる限り発言を行い組織運営に貢献した。特に風樹館長として規定見直し、人事、予算に関する要求および50周年事業のための予算獲得に尽力した。また学科長として円滑な組織運営に尽力した。	
計	1.00		1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		諏訪 竜一	所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・年次指導教員としての役割を果たす。 ・社会のニーズに見合う知識を有することのできる講義を行う。 ・講義分野を学生のみならず、一般公開できるよう取り組む。 ・農作物を自ら作り、食し、食事に対する理解を深める教育を行う。 ・理解しやすくなおかつ深みのある講義を行う。 ・学生の積極的な学会参加を促すとともに農学系関連企業の紹介などに積極的に取り組む。 		0.30	<p>年次指導教員としての活動を行うとともに、講義などでは公開授業としての登録を行い、社会人受講者に対する講義も行った。このため、多くの学生達が理解しやすい講義を行うよう心がけた。また、栽培等を通じて食事などに利用する原料の作付から収穫に至るまでの流れを学ぶ教育を行った。</p>	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・競争的資金獲得による研究課題については、十分な成果が得られるよう努力する。 ・他組織などと共同で研究を行い、相互のレベルアップに努める。 ・これまでに行った研究に関する論文を投稿し、受理を目指す。 		0.30	<p>Horticulture journal誌とFiber journal 誌へ投稿した研究内容が受理された。後者においてはOISTとの共同研究による成果で、数社の新聞記事等に掲載された。その他、査読付の国際誌および邦文誌に投稿を行い、現在は審査中である。</p>	
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、県北部地域の農産業発展に寄与する研究を行う。 ・地域産業の発展に貢献するため関連機関への助言や研究成果の反映を行う。 		0.20	<p>科研費の成果から、沖縄ブランド精油の採択につながり、製品の試作を行った。また、沖縄県、大宜味村、琉球大学URA、OISTとの共同研究で、芭蕉布の原材料の素材としての特徴を解明した。</p>	
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長等の管理職の加重な負担を軽減するため、できることは協力し学科の動きを軽敏にし、研究活動の活発化に努める ・分担している各種委員会の活動を行う。 		0.20	<p>教育委員、予算委員およびURGCC委員としての活動を行った。できる範囲内で、学科への協力を行った。</p>	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前		谷口 真吾	所属		農学部 亜熱帯農林環境科学科
職名				教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	<p>学部講義は、専門用語の意味することの正確な理解とともに、基礎定理・法則を十分に理解させて、専門科目ごとの基本知識として確実に十分に定着させることに重点を置く。講義ごとに毎回配布する講義資料を順次改訂し、最新の研究成果等の情報も盛り込みながら内容の充実を図る。毎回の講義終了10分前に、学生からの講義に対する意見、疑問点、質問等の聴取を紙媒体によって行う。次回の講義の冒頭で疑問点などには回答する。大学院講義は、院生のサイエンスコミュニケーション能力と考察力を高めることに重点を置いた講義を行う。目標達成のために、具体的な論文データに対する学生と議論を主体とする演習を随時、講義の中に組み込む。造林学研究室の専攻生に対し、進学指導のためのガイダンスならびに就職支援のための情報提供などを積極的に行う。また、公務員試験、企業採用試験の面接や小論文の練習、エントリーシートの作成など、私の可能な範囲の指導を研究室専攻生等、個々の受験生に対し実施する。さらに、大学院の進学率を高める指導も行う。</p>		0.40	<p>学部講義は、専門用語の意味することの正確な理解を説明して、受講生に再反復させる機会を設けた。基礎定理・法則を十分に理解させて、専門科目ごとの基本知識として確実に十分に定着させることに重点を置くことを講義中は意識した。講義ごとに毎回配布する講義資料を順次改訂し、最新の研究成果等の情報も盛り込みながら内容の充実を図った。毎回の講義終了10分前に、学生からの講義に対する意見、疑問点、質問等の聴取を紙媒体によって行った。次回の講義冒頭の時間に主な疑問点などには記載した学生の名前を伏せて回答した。大学院講義は、院生のサイエンスコミュニケーション能力と考察力を高めることに重点を置いた。目標達成のために、具体的な論文データに対する学生と議論を主体とする演習を随時、講義の中に組み込んだ。</p>
研究	0.40	<p>年度内に日本森林学会誌等の中央誌に1編以上の論文投稿、受理・採択を目指す。日本森林学会第129回大会、ならびに九州森林学会大会で研究発表を行う。院生には亜熱帯森林研究発表会での発表をさせる。住友財団、みずほ財団の研究費申請を行う。</p>		0.40	<p>年度内に日本緑化工学会誌1編の論文投稿、受理・採択がなされた。日本森林学会第129回大会、ならびに九州森林学会大会で研究発表を行った。院生に亜熱帯森林研究発表会での発表をさせた。住友財団、みずほ財団、サントリー財団、トヨタ環境財団の研究費申請を行ったが、いずれも不採択であった。</p>
社会貢献	0.10	<p>沖縄の林業のために、県林務関係職員ならびに森林資源研究センター研究員と継続的に連携し、とくに沖縄の林業の中心域である県北部域の現地踏査に立ち会い、問題点および解決課題の抽出を行う。その関係も含めて、県あるいは国主導の外部専門委員会への招聘や委員任命、参考人としての出席要請には、積極的に対応する。</p>		0.10	<p>沖縄の林業のために、県林務関係職員ならびに森林資源研究センター研究員と継続的に連携し、とくに沖縄の林業の中心域である県北部域の現地踏査に立ち会い、問題点および解決課題の抽出を行った。その関係も含めて、県あるいは国主導の外部専門委員会への招聘や委員任命、参考人としての出席要請に積極的に参加した。今年度は日本樹木医会沖縄県支部の会員が25名となり、九州、沖縄地区でも福岡県について2番目の会員数になったこともあり、初めて九州地区協議会を沖縄県で実施した。その過程では沖縄県支部理事の立場で樹木医会の役割や機能を広く県民に広報できた。</p>
管理運営	0.10	<p>学科会議、農学部の各種委員会活動、任命されている全学の委員会活動に積極的に取り組み、出席率100%を目指す。</p>		0.10	<p>学科会議、農学部の各種委員会活動、任命されている全学の委員会活動に積極的に取り組んだ。すべての委員会等の出席率は90%以上である。</p>
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		井上 章二	所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	学部においては前学期:森林水文学、森林環境学、外国文献講読Ⅰ、および卒業論文Ⅰなど、後学期:森林土工学、森林工学演習実習、流域・森林保全学、森林科学実習、森林測量学、森林測量学実習、卒業論文Ⅱなど、研究科においては森林環境工学特論、亜熱帯農学特別演習等の授業をシラバスに則って行う。それぞれの科目において、前年度の学生の意見や自らの反省を活かした授業の改善を心掛ける。大学院国際農学プログラムにおいてはスムーズかつ効果的に実施できるようコーディネートを行う。研究室の学生に対しては週1~2回のゼミを確保し、卒論学生3名を研究室准教授と協力して指導する。また、研究室の学生に限らずキャリア支援を行い、種々の相談に対応する等、学生支援を積極的に行う。		0.25	学部、研究科すべての授業に対し、共同担当者がいる場合は協力してシラバス通りの実施に努め、昨年度の授業評価の意見を反映させるなど全力投入したが、管理運営にかなりの時間を要し、特に後学期は一部行き届かなかった面もあると思われる。しかし、休講も最低限であり、及第点であると自己採点できる。大学院国際農学プログラムをかなり充実させることができた。研究室ゼミも週最低1回は確保し、研究室在籍学生の卒論を指導した。	
研究	0.15	森林土壌の水循環に及ぼす影響、海岸林の防災・減災機能に関する研究を引き続き行い、その研究成果を国内外のレフリー付き学術誌に投稿し採択を目指す。日本海岸林学会、日本雨水資源化システム学会での研究発表を目指す。今年度からスタートするシロアリ防蟻に関する共同研究を進める。		0.10	今年度は、研究に投入できる時間があまり取れず、予定していた論文投稿、学会発表はできなかったが、できる限り学会に参加し、情報収集に努めた。	
社会貢献	0.10	日本雨水資源化システム学会副会長、日本海岸林学会評議員の責務を引き続き果たす。内閣府沖縄総合事務局開発建設部における入札監視委員会委員として適切な入札が行われるよう尽力するとともに、沖縄県森林緑地課および森林資源研究センターのみならず沖縄県、西原町との連携にも力を入れ、社会貢献に務める。		0.20	日本雨水資源化システム学会の副会長として、学会運営の責任を果たした。日本海岸林学会の役員としても責務を果たした。また、沖縄総合事務局の入札監視委員会委員長としての職責を果たした。学部の地域貢献支援委員会に働きかけ、地域貢献シンポジウムの開催を推進した。	
管理運営	0.45	学部長として農学部の円滑な管理・運営に努めるとともに、琉球大学のさらなる発展に向けて尽力する。農学部では、教授会、代議会、将来計画委員会、人事委員会等の議長としての責務を果たし、全学的には、企画経営戦略会議、教育研究評議会等の委員としての責務を果たす。また、新たにスタートした健康栄養科学コースのスムーズな運営を進める。		0.45	学部長就任3年目となり学部運営に全力を投じた。そのため、所属学科の直接的運営にはほとんど協力できなかった。学部全体として必ずしも成果が上がっていない部分もあるが、大学本部と学部との橋渡しを行った。また、今年度スタートした健康栄養科学コースの滑り出しと体制強化に努めた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松本 一穂	所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	講義主体の授業では学生が理解しにくい部分の説明内容を重点的に見直し、より分かりやすく、興味が持てるよう改善する。実験では期間全体をとおして学生主体で研究テーマを立案・実施する内容としていたが、学生の負担が大きかったため、本年度は授業毎に小課題を実施する形式に変更する。卒業研究ではこれまで研究テーマと計画の立案に多くの時間を要し、調査・分析に十分な時間を割けない場合が多かったことから、初期の段階から教員が積極的に関わることで、迅速に研究が開始できるよう支援する。4年生に対しては、希望の進路に応じて就職や進学に関する情報収集などを行い、進路の決定を支援する。		0.30	講義主体の授業については、全ての内容について検討し直し、説明がより端的で理解しやすくなるよう改善した。実験では毎回小課題を実施する形式に変更することで、学生の負担軽減のほか、より多岐にわたる内容の実験が可能になった。卒業研究の進行には初期段階から積極的に関与し、細やかな指導を心掛けた。進路の相談にも積極的に応じ、進路の決定を支援した。	
研究	0.30	与那フィールドの亜熱帯林とマレーシアの熱帯雨林における物質循環に関する研究を学内外の研究者と共同して進めるとともに、これまで得られた研究成果について、順次投稿論文としてまとめる。科学研究費補助金や民間の研究助成金にも積極的に応募する。		0.30	沖縄とマレーシアにおいて亜熱帯林と熱帯雨林の物質循環に関する共同研究を進めた。2017年9月にはマレーシア・サラワク州森林研究所と合同でフィールド調査講習会を開催した。これまでの研究成果についても順次取りまとめ、来年度中の投稿を目指して論文執筆を進めた。なお、平成29年度は共著論文1報が受理されている。科学研究費補助金を含む外部研究資金にも積極的に応募し、鳥取大学乾燥地研究センターの共同研究に採択された。	
社会貢献	0.10	沖縄県等の関係機関と連絡を密にとり、沖縄県の林業および環境政策の推進における諸課題について理解を深め、将来的にそれらの問題点に対して学術的立場からの問題点の抽出や解決策が立案できるよう、問題意識を持って研究に取り組む。		0.10	2017年8月に沖縄県庁で開催された亜熱帯森林・林業研究会研究発表会でやんばるの森林の生態系機能に関して紹介し、地元新聞2紙に取り上げられた。また、2017年11月に金武町で開催された日本生態学会生態系管理講習会では、マングローブ植物の状態を把握するための各種モニタリング方法について講演し、マングローブの保全を進める地元関係者に学術的な情報を提供した。	
管理運営	0.30	グローバル教育支援機構授業支援部門の併任教員のほか、農学部では代議委員や学術報告編集委員、エコアクション21ユニット実施責任者、その他委員会委員を務め、全学、学部、学科をとおして管理運営に貢献する。		0.30	全学ではグローバル教育支援機構授業支援部門の併任教員およびハラスメント相談支援センター相談員を務め、農学部では代議委員のほか、学術報告編集委員、平成30年度学科長選挙管理委員長、その他委員会委員を務め、全学、学部、学科をとおして管理運営に貢献した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		辻 瑞樹	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	研究室配属学生のメンタルケアにとくに心がける。担当科目を履修した学生の修得度向上に力を入れる。講義では学生の集中力を持続させるべく授業プログラムを改善する。研究室で継続しているOISTとの共同セミナーを今年も行う。3月修了時に全学生院生の就職進学内定を目指す。			0.30	コミュニケーションの機会を増やすことで学生のメンタルケアと修得度向上につとめた。授業では適宜ショートブレイクをいれる試みをした。OISTとのセミナーは2度開いた。残念ながら、卒業生修了生の全員就職内定には至らなかった。		
研究	0.30	代表として採択中の科研費、基盤(A)海外、基盤(B)一般、と挑戦的萌芽研究を計画どおり遂行し、とくに春と秋の海外調査には力をいれる。Impact factor 3以上の雑誌への論文掲載を最低1つ目指す。			0.25	科研費の研究は滞りなく進んでいる。Inpact Factor 3以上の雑誌に、5報 (ScientificReports×3、Molecular Ecology, Proceedings of the Royal Society of London B)掲載され目的達成		
社会貢献	0.30	日本学術会議連携会員、学協会(生態学会将来計画委員長、国際社会性昆虫学会日本地区会長等)、環境書や沖縄県等の各種委員としての任務を遂行する。とくに申請した学術会議マスタープランおよび自然史博物館構想の実現にむけ各方面に働きかける。学振、JST等の活動に依頼があれば協力する。日本語教科書の編集者(共立の2シリーズ)を引き続きつとめる。			0.40	左記の委員等の活動を行っただけでなく、ヒアリ問題が日本で起ったため、各種メディアの取材対応や環境省等の委員会に参加し社会貢献につとめた。「生態学者伊藤嘉昭伝」など複数の著書を監修した。		
管理運営	0.10	学内および全学の各種委員としての任務を遂行する。			0.05	各種学内委員をつとめ委員会に出席した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鬼頭 誠	所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	学部担当科目(前期:応用土壌学、土壌肥科学実験、外国文献講読、卒業論文)、後期(食料生産と環境、熱帯肥培管理論、生態環境科学実験、外国文献講読、卒業論文)を担当し、学部・学科の理念に基づいた講義を行う。大学院担当科目(植物生理・生態学特論、特別演習、特別研究)についても研究科・専攻の理念に基づいた講義を行う。その他分担科目についても自身の専門家ら責任を持って担当する。また、学生の希望進路に沿った助言を行うとともに、学会等の出張時に進路指導上の情報収集に努める。これに関連し、学生の希望に沿ったインターンシップ受入先の獲得に努める。		0.30	目標に記載した学部担当科目を学部・学科の理念に基づいた講義を行った。大学院担当科目についても目標に記載した科目について研究科・専攻の理念に基づいた講義を行った。その他分担科目についても、自身の専門から責任を持って担当した。また、学生の希望進路に沿ったインターンシップ先の手配をし、学会等の出張時などに得た進路指導上の情報を基に助言を行った。	
研究	0.35	学部および修士学生と共に研究成果を全国規模の学会で2つ以上発表する。研究論文を連大基準のジャーナルに2編以上投稿して掲載を目指す。外部資金の獲得に努力すると共に、学内のプロジェクト研究に応募する。さらに、学内外の関連する研究者と共同研究を行い、実社会に応用できる技術の開発に努める。		0.35	外部資金は獲得できなかったが、学内プロジェクト経費を獲得し、教育学部の教員とともに耕作放棄地での教育と新たな食品開発の可能性を調査した。学内外の関連研究機関等の研究者と共に実社会に応用できる技術の研究開発に努めた。関連学会において2題の発表と連大基準の学会誌に2編の論文を投稿した。	
社会貢献	0.25	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努める。過去の研究成果を基に洋性があった場合は、学外で講演会やその他専門家としての委員を務める。高大連携事業や生涯学習事業に協力する。		0.25	日本農業教育学会評議員として学会の活性化に努めた他、他機関の評価者として申請課題の評価を行った。また、一般公開授業を開講し、5名の受講生の受け入れた。	
管理運営	0.10	全学進路指導委員として責務を果たす。その他、学部の各種委員会委員を責任を持って務める。		0.10	全学進路指導委員として責務を果たす。その他、学部の進路指導委員会、研究圃場委員会の委員長として学部運営に協力した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		立田 晴記	所 属		農学部亜熱帯農林環境科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.45	卒業論文, 修士論文, 博士論文の研究計画策定のサポートを行い, データ取得から解析まで, 一通りの技術を身につけられるように指導する。学部および大学院向けの講義を行い, 卒業研究を実施するための基礎学力の底上げを図る。また学生がそれぞれ希望の進路に進めるよう, 適宜指導と助言を行う。			0.45	卒業論文8名, 修士論文7名の作成指導をおこなった。具体的には統計解析法, 実験デザイン, 論文作成法に関するアドバイスをおこない, 適宜参考論文・教科書を提示しながら研究の基礎力をつけられるよう配慮した。大学院講義では統計パッケージRの利用法と生物統計学に関する指導をおこない, 論文作成に直接役立つ統計学のスキルを身につけられるよう工夫した。		
研究	0.45	新規取得した代表科研費(基盤B国内), 継続研究(基盤B海外), 共同研究(科研費基盤A,C)については, 今後の目標設定を的確に定めながら研究を進めて行く。また学術論文を最低2本仕上げ, 投稿する。また戦略的イノベーション創造プログラム(SIP:内閣府)は研究班からはずれるがコンソーシアムメンバーとして残留するため, トマトを中心に物理的防除に関するデータを取得する。			0.45	今年度新たに獲得した科研費(基盤B, 挑戦的研究)と学内研究費(科研費獲得インセンティブ経費, スタートアップ経費)に関する研究を推進した。また原著論文については出版, 受理されたものが計7報, 投稿中のものが3報ある。また戦略的イノベーション創造プログラムについては学内研究費を新たに獲得し, 新たな防除法の効果を確かめる実験を実施した。		
社会 貢献	0.05	日本応用動物昆虫学会の英文誌編集者, 動物行動学会の英文誌編集責任者としての仕事を全うする。また6月に東京大学で行われる国際形態測定学シンポジウム(ISBSA)ではオーガナイザーの1人として職務を全うする。			0.05	学会編集者, 編集責任者としての業務を全うした。また6月に開催された国際形態測定学シンポジウムでもオーガナイザーの1人として司会や企画を担当した。		
管理 運営	0.05	各種委員会委員, 学外からの委託委員の職務を全うする。			0.05	各種委員会委員, 学外からの委託委員の職務を全うした。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 和俊	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	<p>共通教育科目(琉球の自然と情報科学演習)、学部担当科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験、応用土壌学、生態学環境学)と大学院担当科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、講義を行う。また共通教育担当科目の情報科学演習ではパソコンに関する一般的な利用方法について理解させる。講義は必要に応じてレポートを課し、さらにグループ学習も行う。学生の希望などを踏まえ、進学および就職の支援を行う。</p>			0.25	<p>共通教育科目(琉球の自然と情報科学演習)、学部担当科目(土壌環境科学、環境土壌学、土壌化学実験、応用土壌学、生態学環境学)と大学院担当科目(土壌環境科学特論)を担当し、学部学科の理念に基づき、専門知識等を十分に理解させることに重点を置き、講義を行った。また共通教育担当科目の情報科学演習ではパソコンに関する一般的な利用方法について解説した。講義は必要に応じてレポートを課し、さらにグループ学習も行った。学生の希望などを踏まえ、進学および就職の支援を行った。</p>		
研究	0.25	<p>2017年度日本土壌肥料学会全国大会と日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行う。研究成果は約1報を投稿し、年度内の受理採択を目指す。また他分野の研究者と共同研究も積極的に行う。また、外部資金獲得のために、科研費や財団の研究助成への応募を積極的に行う。民間企業との共同研究を行う。</p>			0.20	<p>2017年度日本土壌肥料学会九州支部例会にて研究発表を行う。研究成果は1報を投稿し、粘土科学誌に学術論文が受理された。さらに海外のジャーナルへ論文を投稿し、査読中である。外部資金を獲得し、他大学や民間企業との共同研究を行った。</p>		
社会貢献	0.25	<p>県や国主催の外部会議に招聘された際に、出席し、その任務を全うする。一般の方や農家に対する講演会や勉強会に積極的に参加し、社会貢献につとめる。小学校などでの課外授業を積極的に行い、地域教育にもつとめる。</p>			0.25	<p>沖縄市経営・生産対策推進会議に出席した。またマングローブ協会主催の講演会で、マングローブの生態について講演を行った。さらに、石垣島野底小学校の3~4年生の総合学習(マングローブの生態)を3回担当した。</p>		
管理運営	0.25	<p>農学部の教職担当委員や安全衛生担当委員として、仕事を全うする。教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努める。また、オープンキャンパスでは積極的に農学部をアピールし、センター試験の監督等を積極的に参加する。さらに割り当てられた委員の仕事をする。</p>			0.30	<p>農学部の教職担当委員や安全衛生担当委員、入試担当委員、広報委員、フィールド運営委員、農学部改修WG。教授会および学科会議に積極的に参加し、大学の管理運営に努めた。広報委員として、農学部の入試案内のために、3校訪問し、農学部の広報につとめた。</p>		
計	1.00				1.00			
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>					<p><input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。</p>			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	建本 秀樹		所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	
職 名			職 名	教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	昨年度は対話型講義スタイルにより学生の理解力の向上が着実に図られたと、授業評価アンケート等から推察されている。したがって、今年度も対話型講義スタイルに加えて、学生の学習に対する向上心を刺激するよう心掛ける。また、研究室でのゼミでは、学生の研究に対する探究心、ならびに科学英語論文の読解力を鍛え、卒論研究等に生かせるような実践的な教育を研究倫理を踏まえた上で実施する。さらに、研究室に配属されている学生に対しては大学院への進学も含めて進路指導を積極的に行う。一方、3年次生の年次指導教員として他の年次指導教員と協力して、3年次学生の生活・学習・進路指導を確実に行う。		0.30	対話型講義スタイルを取り入れ、常に学生に対して問題を提議しながら進めていく講義スタイルを積極的に実施した。その結果、当初は学生達も遠慮がちであったが、次第に学生の方から積極的に返答がなされるようになり、理解力の向上に繋がったと推察される。また、研究室のゼミ活動では、学生の英文読解力向上に重点を置きつつ研究の面白さを伝えた結果、3年次の4名の学生の内、3名の学生が大学院修士課程への進学を決め、残り1名は就職活動を行っている。さらに、3年次の年次指導教員として、他の先生方と協力しながら国立渡嘉敷青年の家での1・3研修をスムーズに実施した。
研究	0.35	昨年度からの継続である科研費の基盤研究(C)の研究課題に取り組む。また、沖縄県と「種雄牛造成」に関わる新たな研究課題についても共同研究を開始する予定であり、地域に貢献できる研究成果の達成に努める。そして、学術雑誌等への2報以上の研究論文の採択と共に、関連学会での2演題以上の学術発表を目指す。		0.35	平成28年度に獲得した基盤研究(C)に関する研究、さらには、沖縄県との「種雄牛造成」に関わる新たな研究課題についても共同研究を開始した。今年度は、2報の学術論文が雑誌に掲載され、そして、国際学会で1演題、国内学会で2演題の学術発表を行った。なお、国内学会での学術発表では、審査の結果、発表した学生が優秀発表賞を受賞した。さらに、これまで培ってきた研究技術で地域に貢献すべく養豚業者との研究協力体制も構築できた。
社会 貢献	0.15	沖縄県が主催している「沖縄県アグーブランド豚推進協議会」に学術委員として出席し、今後の沖縄県養豚産業の活性化を図る。また、関連企業や県内高校からの問い合わせ等に積極的に応じ、要望があれば出前講座等を実施したい。さらに、「アグー保存会」との連携をさらに深め、純粋系アグーの系統保護に学術的ならびに技術的な両面から貢献する。なお、本年度からは、これまでのアグーに関する研究成果を生かして、県内養豚企業への技術提供を実施する計画である。		0.20	沖縄県の「おきなわアグーブランド豚推進協議会」に学術委員として参加した。また、沖縄県立北部農林高等学校が中心となっている「アグー保存会」との事業展開の一環として、純粋系アグーの維持・管理の指導、ならびにブランド豚の生産に研究協力を行った。その結果、沖縄県内養豚業者に「カスタムメイドによるアグー凍結精子」を利用した技術協力をし、夏季の精子性状が低下し受胎率が低下する時期に冬季に凍結した精子を用い安定した受胎率・分娩頭数を維持することに成功した。
管理 運営	0.15	学部の教育委員とFD委員、さらには全学の危機管理委員等の各種委員会活動に積極的に参加すると共に、学科会議や教授会等の会議への出席率を80%以上にする。そして、学科や学部の運営に貢献する。		0.15	昨年度に引き続き今年度も、学科会議、学部教授会および研究科委員会に90%以上の割合で出席し、担当した各種委員会では積極的に発言を行った。また、FD委員会ではFD制度の改革に対して責務を果たせたと思う。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		金野 俊洋	所 属		農学部 亜熱帯農林環境科学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	動物の生命活動を理解する上で基礎となる生体機構について、マク ロ解剖学から分子生物学に至る幅広い知識を伝えるとともに、解剖・ 組織学研究に必須の実験手法を習得する解剖学実習の内容充実を 図る。		0.50	動物生体機構学と動物解剖生理学の内容を見直し、より詳しい解説を行う ことができる講義スケジュールとした。
研究	0.30	哺乳類の胚盤胞活性化の機序に関する研究(基盤研究C)に取り組 むとともに、さらなる競争的研究資金獲得のための体制づくりと基礎 データの収集を行う。		0.30	基盤研究Cの遂行するとともに、これまでの成果の一部を国際学会(World Congress of Reproductive Biology 2017)にて発表した。また、関連分野の 国内外の動向について情報収集を行なった。
社会 貢献	0.10	沖縄県立農業大学校の非常勤講師として家畜解剖学を担当し、県 の研究・教育現場との連携体制を構築する。		0.10	沖縄県立農業大学校の非常勤講師として家畜解剖学の講義を担当した。
管理 運営	0.10	動物実験委員、発明審査委員、遺伝子組換え生物等使用実験安全 主任として大学、学部の管理運営に尽力する。		0.10	動物実験委員、発明審査委員、遺伝子組換え生物等使用実験安全主任と しての責務を全うした。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	関根 健太郎		所 属	農学部 亜熱帯農林環境科学科	
職 名	准教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	植物病理学実験では、実験方法の把握だけでなく、卒業論文研究に適用可能な「実験結果の考察」に重点をおいて考えさせる課題を課し、その習慣化を図る。担当講義(植物ウイルス学、熱帯植物病理学、植物病理学特論)では、当該研究分野の社会需要(防疫事業など)を紹介し、学習の明確な目的を持ち、興味と理解を高める。また、食・農・環境概論、亜熱帯農学特論において農学の植物病理学に関する講義を通し、社会的な課題へ農学の貢献する場面について考える機会を提供する。情報科学演習、英語文献講読においては、情報処理技術だけでなく、情報収集能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養うことを強く意識した演習とする。植物病理学研究室の学生に対して、植物病理学に関する分子生物学実験を通して、情報収集、計画性、論理的思考の能力開発を促す。3年次指導教員として、将来の進路について、深く考えるよう促す。研究室の学生に留まらず、学生が多様な進路の選択肢を考えられるように関連研究者などとの交流の場を設けるなど積極的に行う。社会人との交流を増やすことでコミュニケーション能力を養うサポートをする。		0.40	植物病理学実験では、「実験結果の考察」に重点をおいて考えさせる課題を課し、その習慣化を図った。卒業論文研究の指導についても同様であり、担当学生2名について、1年間を通して指導を行い、専門技術・知識を自ら進んで習得するよう喚起した。担当講義(植物ウイルス病学、熱帯植物病理学)では、社会需要(防疫事業など)を紹介し、明確な目的を持ち、興味と理解を高めた。研究室の学生に対して、分子生物学実験を通して、情報収集、計画性、論理的思考の能力開発を促した。特に、熱帯植物病理学は平成29年度後学期地域志向教育推進授業に採択され、沖縄県農業研究センターの職員によるセミナーや、県内の病害問題に携わる研究者による作物保護検討会を開催し、学生に地域課題への農学の貢献について考える機会を与えた。さらに平成29年度COC+地域実践教育推進取組『正課外地域実践教育プロジェクト』に採択され、課外活動として熱帯果樹園の整備を有志学生と共に行った。沖縄県病害虫防除技術センターの発生予察調査活動に参加するなど、農業振興に寄与する人材育成を目指した教育効果を高めた。また、食・農・環境概論、亜熱帯農学特論において農学の植物病理学に関する講義を通し、社会的な課題へ農学の貢献する場面について考える機会を提供した。情報科学演習、英語文献講読においては、情報処理技術だけでなく、情報収集能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養うことを強く意識した演習を実施した。植物病理学研究室の学生に対して、植物病理学に関する分子生物学実験を通して、情報収集、計画性、論理的思考の能力開発を促す。3年次指導教員として、コース選択だけでなく、将来の進路について、深く考えるよう促した。研究室の学生に留まらず、学生が多様な進路の選択肢を考えられるように関連研究者などとの交流の場を設けるなど積極的に行った。社会人との交流を増やすことでコミュニケーション能力を養うサポートができた。
研究	0.40	地域作物の病害防除を目指した研究の基盤を構築する。関連する研究内容について論文を投稿し受理を目指す。関連学会(植物病理学会、園芸学会)で発表を行う。これまでの研究成果をまとめ、官民との連携に基づく研究事業への応募など新たな外部資金の獲得を目指す。		0.40	本年度は科研費1件、沖縄科学技術振興センターの研究費1件、学内研究費(産学官金スタートアップなど)が採択となり、これらに取り組んだ。植物ウイルス研究の論文2報が国際誌に掲載され、加えて新たに2報を投稿した。学会発表(園芸学会、植物病理学会、植物ウイルス病研究会)をした。学内の時空間ゲノミクスプロジェクトの支援のもと、バイオインフォマティクス技術の習得に努め、植物ウイルスの効率的な診断技術に寄与する遺伝子配列解析の自動化プログラムを構築した。
社会貢献	0.10	国や県の試験研究機関の研究員に対して技術指導、研修会、講演会を通して、技術の普及に努め、地域農業の病害防除に資する。		0.10	国や県の試験研究機関の研究員に対して技術指導(沖縄県職員への実験指導)、研修会(作物保護検討会)、講演会(園芸学会小集会)を通して、技術の普及に努めた。病害防除に関するワークショップ1回、シンポジウム1回、セミナー3回を琉球大学において開催した。ピーマンのウイルス病害について沖縄県病害虫防除技術センターに対して研究協力を行い病害虫発生予察情報特殊報(公文書)の発行に貢献した。那覇植物防疫事務所の隔離検疫業務に対する研究協力によって、パインアップルの新規ウイルスを発見し、新病害の侵入を防ぐことに貢献した。
管理運営	0.10	入学試験委員会、安全衛生委員会などの学部および学科運営に尽力する。		0.10	入学試験委員会、安全衛生委員会、各種選挙管理委員会などの学部および学科運営に貢献した。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。